

男女格差、世界で120位。遅れの背景さぐる 新潟女性財団の大島照美子さんが講演

21日午後からは、年に6、7回行われる議員勉強会が行われました。テーマは男女共同参画社会の形成でした。講師は新潟県女性財団の大島照美子（くみこ）さんです。

大島さんは、スイスのシンクタンク世界経済フォーラムが公表した2021年の男女格差報告（ジェンダー・ギャップ指数）で、日本が156カ国中120位だったことをとりあげた4月8日の新潟日報社説を読むところからスタート。男女共同参画社会をめざす基本法や国内外の動き、基本計画の内容などを上越市の取組なども紹介しながら語りました。

日本は非正規雇用比率が異常に高くなっていますが、大島さんは講演の中で、男性が22.8%で、女性が56%となっている（2019年度）ことなどをあげ、女性が労働、子育て、介護等の分野で特別ひどい状態となっているこ

とを浮き彫りにしました。

講演ですごいと思ったのは、男女共同参画に関する取組の年表です。1975年から2018年までの世界（国連）、日本、新潟県、そして上越市の取組をA3の用紙にまとめてくださったのです。ここでは、上越市が県内でも先駆けて男女共同参画都市宣言をしたこと（2001年）、それに基づき、男女共同参画基本条例の制定、基本計画の策定をしたことなどにもふれてくださいました。まさか、上越市の取組を世界の動きのなかで時系列で見ることができる年表を示してくださると思いませんでした。



今回の講演を機に上越市の取組をしっかりと振り返り、一部後退した部分も含め、きちんと到達点を整理したいものです。



上はスカイトピア遊ランドのモニタリングポスト。下は下黒川地区公民館脇ポストの説明をする私。

柏崎刈羽原発から30キロ圏内の自治体議員を中心にして東電との安全協定見直しを求めているUPZN研究会の上越市議会のメンバー6人が24日、上越市内の放射線モニタリングポストの視察を行いました。

この日は市内のモニタリングポスト14か所中、久比岐高校、柿崎地区公民館下黒川分館、柿崎川ダム管理所、吉川区のスカイトピア遊ランドなど6か所を視察し、放射線量測定の状態や冬季間の管理などの状況を確認しました。

柿崎川ダムのところは自家発電施

設も設置され、観測体制がこれまでよりも強化されています。モニタリングポストは大雪になってもしっかり監視できる状況になっていることが求められますが、吉川区の山間部や大島区旭地区に設置されているものは、対策が必要ですね。

スカイトピア遊ランド敷地内モニタリングポストは、近くに住む人の話では、大雪で電光表示器が壊れ、電光表示器が外されたままになっていました。でも、この日は、「電光表示器調整中」と張り紙がされていました。当然の措置です。

モニタリングポストは冬期対策必要



【ユキザサ】ユリ科の多年草。漢字で「雪笹」と書きます。茎は丸く、高さは20センチほど。中には50センチを超えるものも。花期は5月から7月。茎先に白く、小さな花を咲かせます。満開時はササの上に雪がのったように見えます。落葉広葉樹林にあります。花言葉は、「汚れのない、美しい輝き、栄光」など。写真は5月14日、吉川区尾神にて撮影。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2013 2021.5.30

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第六六〇回

童心に帰って

人間の記憶というのは面白いものですね。ちょっとしたことでもきっかり覚えて、思い出し、新たな体験につながっていくことがあるのですから。

先日の朝、散歩しながら野の花を探していた時のこと、目当ての花が無く、ちょっとさみしい思いをしていました。そんなときに、目に留まったのがゼンマイです。

ゼンマイは、多年生シダ植物です。山菜として食べる時期はとくに過ぎていきます。うすまき状態で綿毛におおわれていた茎の姿は一変し、左右の小枝には長い楕円形の葉がたくさんついています。

この姿を写真に撮り、「ゼンマイはいま、大きくなって葉を広げています。子どもの頃は、これくらいになると、片側の葉を落とし、飛行機にして遊びました」という説明を付けてフェイスブックに投稿しました。

すると、「飛ぶんですか。こういうので『飛ばす技術』を競うのが、健全な成長に役立つそうですね」「その遊びは知らないです。紙飛行機みたいに飛ぶんですね?」「子ども時代はあるもので想像力をふくらませて工夫して物を作り、愉快地遊びましたよね」などといったコメントが次々と寄せられました。なかには、「動力はゼンマイですか?」といった「舌を巻く」ようなコメントもありました。

食べ物としてのゼンマイは広く知られていますが、生長して葉を広げた姿はあまり知られていません。おもちゃの飛行機を作れることについてはなおさらです。

たくさんコメントを読んだ私は、もう一度、ゼンマイのあるところに戻りました。手でゼンマイの茎をつまんでみると、けっこうかたくなっています。これなら、飛行機を作れそうですと一枝折りました。

そして、飛行機の翼を想定し、小枝の葉の片側を指で落として形を整えました。そ

の後、左右のバランスを考え、翼の長さと同じくしました。出来上がった飛行機は一番前の翼が左右それぞれ一二センチほど、二番目、三番目の翼は八センチ、三センチほどの長さです。胴体の長さは二五センチほどにしました。

出来上がれば、あとは飛ばすだけです。近くの田んぼの乗り入れのところで飛ばしてみると、「昔とったなんとか」で見事に三層ほど飛びました。そして何度か繰り返ししているうちに、滞空時間が長く、七、八センチくらい先まで飛ぶものも出てきました。大成功です。

これらはいずれも動画撮影をしましたので、これまたフェイスブックに投稿すると、「面白い、初めて見ました」「こんな遊びもあるんですね」「えっ!すごい飛び!初めて見ました。いつか飛ばしてみたいです」「子どもの頃は暗くなるまで遊んでいたでしょう」「結構よく飛びますよね。主翼や尾翼の葉っぱの後ろを切って調整したくらいにして」「おお、科学だ!」などというコメントが続きました。

注目したのは、私の投稿を見て、何人もの人たちが関心を持ち、実際に飛ばしてみようとしていることでした。夏休みなどのイベントでいろんな実験をして子どもたちに人気の上越科学館の館長さんも関心を持ってくださいました。おそらく、次回のイベントでは、ゼンマイを使った最新型の飛行機を作成し、子どもたちと一緒に飛ばす実演をされることでしょう。

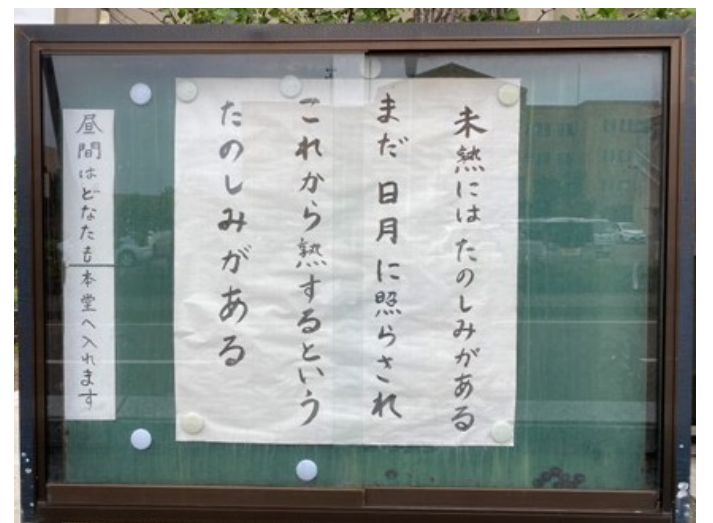
私自身も、すっかり童心に帰って、より優れたゼンマイ飛行機を作って飛ばす計画を頭の中に描いています。この日の翌日、柏崎市へ行った帰り道には、私は聖ヶ鼻の駐車場から海に向かって、ゼンマイ飛行機を飛ばしました。その時は風向きもあって、なかなかうまくいきませんでした。が、何回か実験を重ね、次回は、尾神岳の展望台から飛ばしてみようと思っています。

未熟にはたのしみがある

放射線モニタリングポストを視察した24日、柿崎総合事務所駐車場で解散した後、すぐそばにある浄土真宗本願寺派寺院、浄善寺の掲示板を見てきました。

「未熟にはたのしみがある まだ日月に照らされこれから熟するというたのしみがある」

どなたの言葉かわかりませんが素敵な言葉ですね。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月19日(水)	5月26日(水)
上越南消防署	0.050	0.053
上越北消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.057	0.053
頸北消防署	0.053	0.047
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.047	0.057
名立分遣所	0.053	0.067
高士分遣所	0.053	0.053

稲作などに影響…5月の低温



「苗の伸びが悪くて、田植えを10日ほど遅らせた」「田植えをしたものの、活着が進まない」などの声が聞かれます。

これらは5月の平均気温が例年よりも低いことからくるものです。豪雪の後には低温、今年の夏も異常気象となりそうです。写真は、大島区旭地区Sさんの田んぼです。

春よ来い

第六六〇回

童心に帰って

人間の記憶というのは面白いものですね。ちょっとしたことでもきつかけになつて、思い出し、新たな体験につながっていくことがあるのですから。

先日の朝、散歩しながら野の花を探していた時のこと、目当ての花が無く、ちょっとさみしい思いをしていました。そんなときに、目に留まったのがゼンマイです。

ゼンマイは、多年生シダ植物です。山菜として食べる時期はとくに過ぎています。うすまき状態で綿毛におおわれていた莖の姿は一変し、左右の小枝には長い楕円形の葉がたくさんついています。

この姿を写真に撮り、「ゼンマイはいま、大きくなって葉を広げています。子ども頃は、これくらいになると、片側の葉を落とし、飛行機にして遊びました」という説明を付けてフェイスブックに投稿しました。

すると、「飛ぶんですか。こういうので『飛ばす技術』を競うのが、健全な成長に役立つそうですね」「その遊びは知らないです。紙飛行機みたいに飛ぶんですね?」「子ども時代はあるもので想像力をふくらませて工夫して物を作り、愉快に遊びましたよね」「などといったコメントが次々と寄せられました。なかには、「動力はゼンマイですか?」といった「舌を巻く」ようなコメントもありました。

食べ物としてのゼンマイは広く知られていますが、生長して葉を広げた姿はあまり知られていません。おもちゃの飛行機を作れることについてはなおさらです。

たくさんコメントを読んだ私は、もう一度、ゼンマイのあるところに戻りました。手でゼンマイの莖をつまんでみると、けっこうかたくなっています。これなら、飛行機を作れそうですと一枝折りました。

そして、飛行機の翼を想定し、小枝の葉の片側を指で落として形を整えました。そ

の後、左右のバランスを考え、翼の長さを同じくしました。出来上がった飛行機は一番前の翼が左右それぞれ一二センチほど、二番目、三番目の翼は八センチ、三センチほどの長さです。胴体の長さは二五センチほどにしました。

出来上がれば、あとは飛ばすだけです。近くの田んぼの乗り入れのところで飛ばしてみると、「昔とったなんとか」で見事に三層ほど飛びました。そして何度か繰り返ししているうちに、滞空時間が長く、七、八センチくらい先まで飛ぶものも出てきました。大成功です。

これらはいずれも動画撮影をしましたので、これまたフェイスブックに投稿すると、「面白い、初めて見ました」「こんな遊びもあるんですね」「えっ!すごい飛び!初めて見ました。いつか飛ばしてみたいです」「子どもの頃は暗くなるまで遊んでいたでしょう」「結構よく飛びますよね。主翼や尾翼の葉っぱの後ろを切って調整したくらいにして」「おお、科学だ!」などというコメントが続きました。

注目したのは、私の投稿を見て、何人もの人たちが関心を持ち、実際に飛ばしてみようとしていることでした。夏休みなどのイベントでいろんな実験をして子どもたちに人気の上越科学館の館長さんも関心を持ってくださいました。おそらく、次回のイベントでは、ゼンマイを使った最新型の飛行機を作成し、子どもたちと一緒に飛ばす実演をされることでしょう。

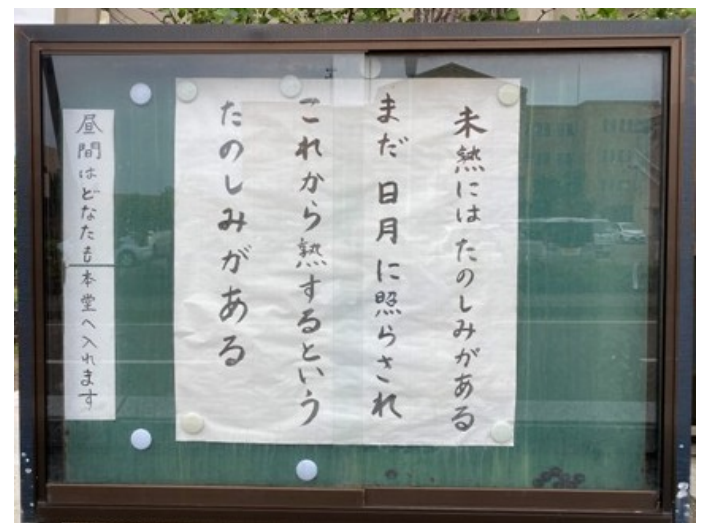
私自身も、すっかり童心に帰って、より優れたゼンマイ飛行機を作って飛ばす計画を頭の中に描いています。この日の翌日、柏崎市へ行った帰り道には、私は聖ヶ鼻の駐車場から海に向かって、ゼンマイ飛行機を飛ばしました。その時は風向きもあって、なかなかうまくいきませんでした。何回か実験を重ね、次回は、尾神岳の展望台から飛ばしてみようと思っています。

未熟にはたのしみがある

放射線モニタリングポストを視察した24日、柿崎総合事務所駐車場で解散した後、すぐそばにある浄土真宗本願寺派寺院、浄善寺の掲示板を見てきました。

「未熟にはたのしみがある まだ日月に照らされこれから熟するというたのしみがある」

どなたの言葉かわかりませんが素敵な言葉ですね。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月19日(水)	5月26日(水)
上越南消防署	0.050	0.053
上越北消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.057	0.053
頸北消防署	0.053	0.047
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.047	0.057
名立分遣所	0.053	0.067
高士分遣所	0.053	0.053

稲作などに影響…5月の低温



「苗の伸びが悪くて、田植えを10日ほど遅らせた」「田植えをしたものの、活着が進まない」などの声が聞かれます。

これらは5月の平均気温が例年よりも低いことからくるものです。豪雪の後には低温、今年の夏も異常気象となりそうです。写真は牧区大月の田んぼです。